

倶多楽火山

大正地獄では2月から現在まで約30ℓ/分の熱水流出が続き、沼底の温度も70℃前後で推移した。熱水組成から推定される地化学温度は、2月に220～250℃から200℃以下にまで低下し、この状態が現在まで継続している。これらのことから大正地獄は2007年噴騰活動前の状態に復したと判断される。

○大正地獄の熱泥水噴騰活動

2011年5月16日の最後の噴騰活動以降、現在までわずかな熱水流出が続いている。

噴騰活動終息直後の熱水流出量は約100ℓ/分であったが、2011年9月には約30ℓ/分にまで低下した(表1)。2012年1月22日には流出熱水量の増加を示唆する継続時間の短い地動振幅の増大が観測されたが、2月以降は一定の地動振幅で推移し、2月と6月の流出量は約30ℓ/分と大差ない。

熱水組成から推定される地化学温度は、噴騰活動終息後も220～250℃前後を保っていたが、2012年2月以降は200℃以下に低下した(図1)。この温度は噴騰活動開始直後に観測されたが、観測を開始した1963年以降、200℃以下の状態が数ヶ月にわたって続いたことがなく、2007年5月に始まった噴騰活動は終息したと判断される。

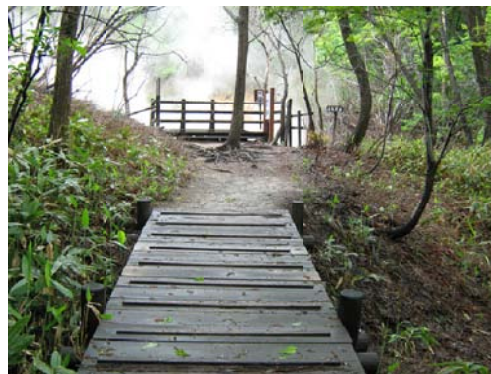


写真1. 2012年6月20日の状況。上：熱水流出口の状況。下：数回の規模の大きな噴騰活動に伴い噴出した熱水により立ち枯れたクマ笹。

年月日	流出量(温度)
2011/06/05	約100ℓ/分(54.8℃)
2011/09/27	約 27ℓ/分(45.6℃)
2012/02/16	約 33ℓ/分(--)
2012/06/20	約 33ℓ/分(44.3℃)

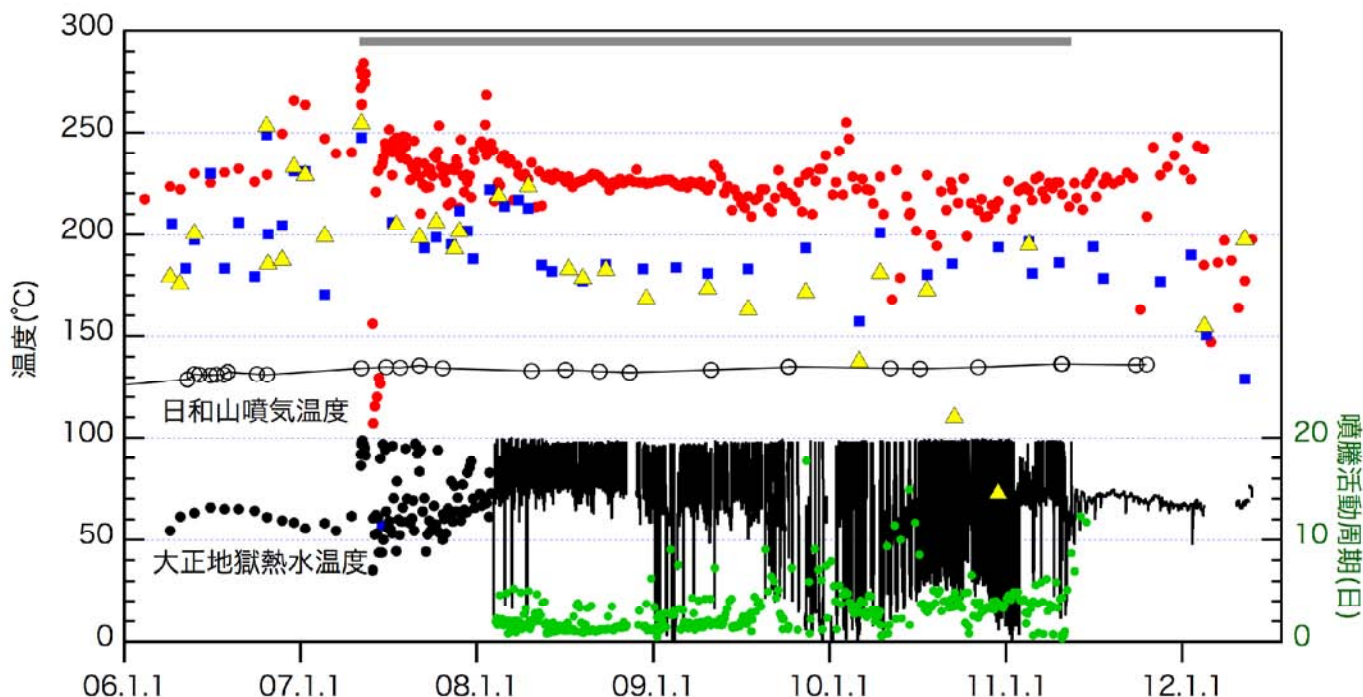


図1. 熱水組成から推定された深部熱水温度、日火山噴気温度、大正地獄の熱水温度及び噴騰活動周期の経年変化。図上部の灰太線は噴騰活動期間を示す。2008年2月以降の大正地獄の熱水温度は底部付近における連続観測値である。

(大島・安孫子・前川)

倶多楽火山